

特別部門 「研究授業参観記」「おだし」

藤岡市立北中学校
飯野 聡



発行ポリシー II 教職員の後方
支援・応援団!

昨年度、私は初めて教頭という職に就きました。その年度当初、「自分には教頭として何ができるのか?」「教頭の仕事で大切なことは何か?」を考えた結果、自分にできることは先生方が活き活きと教育活動に取り組める環境を整え、先生方の心を穏やかに維持してあげることだと感じました。

「教育は人なり」の言葉の通り、先生の力量が教育を左右します。また、授業力の向上は現場の先生の喫緊の課題で、本校でも校内研修で研究授業を積極的に行うことが決まりました。しかし、研究授業という授業をする方も参観する方も身構えてしまいます。また、中学校では放課後の授業研究会の時間を十分に確保することがなかなか難しいという現状がありました。

そこで、先生方が研究授業で頑張る姿を紹介し、意欲の向上を期待した『研究授業参観記』の発行を考えました。

そのねらいは、ただ1つ。その授業と先生の素晴らしかった点を褒めることです。一生懸命に準備し授業を提供してくれた先生に敬意を表し、とにかく褒めます。その褒め言葉は指導案に書かれている「授業改善の視点」を意識しながら、先生の動きや生徒の反応などを観察し紙面に書きます。また、写真を効果的に配置し先生の活き活きとした表情を載せるように配慮しました。また、授業を行ったその日に発行

するよう心がけました。なぜなら、授業者も参観者も記憶が残っているうちの評価こそ大切だと考えたからです。こうすることで、自分の授業を褒められた先生の喜ぶ顔が見られるとともに、他の先生方の「今度は自分が頑張ろう」という意欲の向上が見られた気がしました。

事務的な仕事も多い教頭という仕事で、指導案を読み碎き、参観し、その日のうちに参観記を仕上げるという作業は、時間的に苦勞も多かったですが、しかし、先生方の笑顔を想像しながら発行を続けました。

先生が活き活きとすれば、生徒も学校も活き活きとなります。その1つの起爆剤として発行してきました。今後とも、私は先生方の「縁の下の力持ち」として積極的に応援していきたいと考えています。

●制作データ

- ・紙面のサイズ A4
- ・毎号のページ数 1ページ (場合によっては2ページで両面印刷)
- ・印刷の色 モノクロ
- ・発行号数 平成22年度 年間26号
- ・発行間隔 不定期 (研究授業のある日)
- ・配布対象 教職員+掲示用

講評

(富安敬二)

この作品は今まで応募のなかった領域のもので、「職員室だより」とあり、飯野先生が、教頭となった初年度、自らの役割を考慮した結果、「職員室の担任」として、先生方の後方支援という発行ポリシーのもと、「意識の啓発とアドバイス」を書くことにしたということです。ちなみにタイトルは、学校の運動目標「みそあじ」(註、原稿のママ)をさらに美味しくするための「ダシ」の意味だそうです。この通信のすごいところは、単発の教職員報告ではなく、毎週発行(通算46号)し、その内容も、指導案について、授業参観の心構えなど、学級経営のコツから部活動についてまでとあらゆることに行き届いた配慮があることです。

しかも飯野先生はこの通信だけでなく、「研究授業通信」を年間26号発行し、こちらでは授業者に対する助言を、優しさで厳しさを交えて書かれています。ただでさえ教頭先生は教職員の中でも一番忙しいと言われる中、このような通信を定期的に出されることに敬服し、プリントコミユニケーションの実践紹介に相応しい作品ということで採り上げました。とくに若い先生にとってはこのような通信は力強い味方になるでしょう。ただ、指導、助言といった性格のものが紙面に記録として残ることには抵抗のある先生がいなくとも限らないので、表現には最大限の注意を払う必要があると思います。なお先生は2回目の応募ですが、前回は優秀賞を受賞されています。